

平成15年度香川県水産研究発表会(第9回)アンケート調査集計結果

浦山公治 研究主幹(環境資源研究部門)

平成15年度香川県水産研究発表会(第9回)を3月9日に漁連会館で開催しました。研究発表会は、漁業・養殖業に携わる人や指導機関など水産業に関係する方々に、調査研究の成果をお知らせするとともに御意見等を直接お聞きするため、毎年1回開催しています。今回の発表内容はこちらを御参照ください。→[第9回水産研究発表会要旨](#)
本年度も漁業関係者多数の出席を得て盛況でした。会場で行ったアンケート調査結果がまとまりましたので次のとおり報告します。

1. アンケート調査概要

(アンケート内容) 別紙 [調査票のとおり](#)

(実施日) 平成16年 3月 9日

(回答数) 25

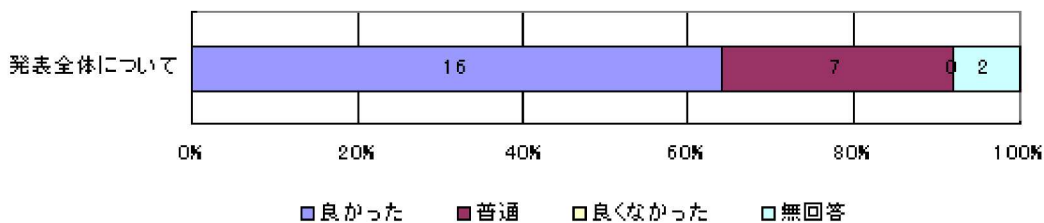
(出席者数) 61名

①漁業士・漁業者	14	④行政機関	5
②漁協役職員	9	⑤試験研究機関	18
③系統団体役職員	10	⑥その他・報道機関	5

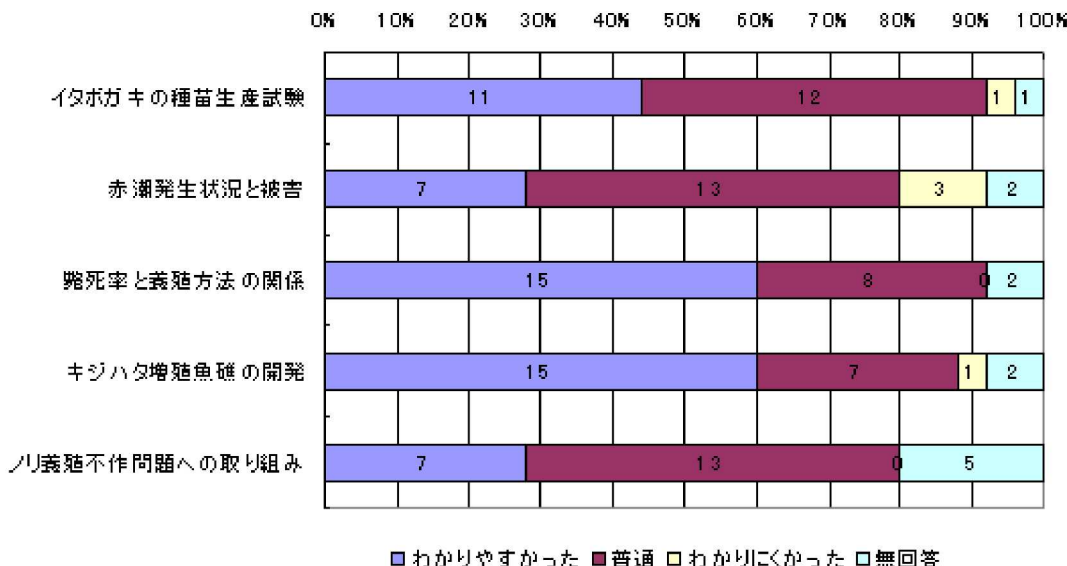
2. 集計結果

(設問1) 本日の発表内容についての印象等をお聞かせください。該当するものに○印をしてください。

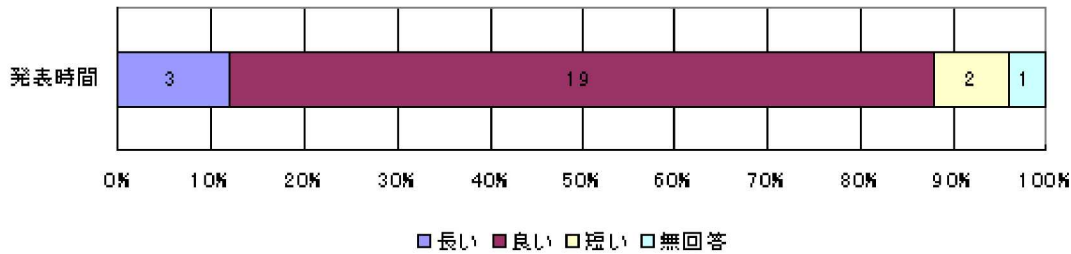
(1) 発表全体について



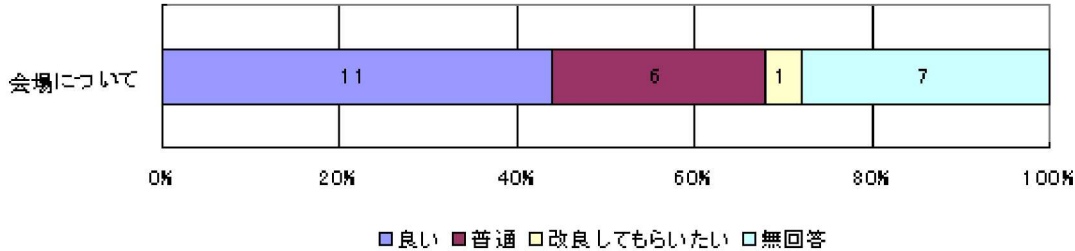
(2) 個々の発表について



(3) 発表時間の長さについて



(4) 会場について



* 開催場所や改良したらよい点などがありましたら、ご意見をお書きください。
(書き込み意見)・手元が明るいように、資料が見えるようにしてほしい

(5) 今後どのような話題を発表したらよいか？ご希望があればお聞かせください。
(書き込み意見)

- ・継続した研究、発表もお願いしたい。
- ・ノリ不作問題等各々の要点を絞ってもっと時間が欲しい。
- ・現状でよいが、ノリ養殖、又漁船漁業等現業者の参加を呼びかけて欲しい
- ・現在研究されている項目を出して、アンケート的に○を付けるという方法で翌年の発表課題を検討すればどうか
- ・瀬戸内海、香川海面の水質の推移、動向
- ・各研究発表が、養殖＝営業生産向上につながるものを期待したい
- ・魚礁について(漁場保全、栽培他を含む)
- ・漁業で現在問題になっていることについて、タイムリーな話題提供を望む。
- 赤潮、ノリの問題の話題提供はそういう面で良かった。
- ・広範囲な調査について課題があれば

(設問2) 試験研究を効率的に推進するために次の6つの重点課題を掲げて試験研究に取り組んでいますが、あなたが特に重要だと思われる(希望する)研究テーマがありましたら、区分ごとに具体的に記入してください。

(書き込み意見)

①水産資源に関する研究

- ・資源管理型漁業の推進、稚仔魚の保護と漁業技術の向上
- ・海底耕うん実施による稚魚類の育成効果について
- ・重要魚種の資源評価
- ・マコガレイの資源について
- ・閉鎖水域での生態系の変遷について

②栽培漁業に関する技術開発

- ・放流効果調査(費用対効果)
- ・放流の効果の実証

③養殖業に関する技術開発

- ・飼料開発、魚病対策、産業として成立する新魚種開発。
- ・ユーカンピアについて
- ・養殖漁場の改良、改質に関する開発
- ・EP飼料の改善、成長の遅れ(対策のことか?)
- ・ノリ養殖の参考として実施している珪藻モニタリングについて、得られた細胞のデータをどう評価したらよいか分らないので、その参考となる研究。
- ・養殖技術だけでなく付加価値向上。
- ・イタボガキは重要種と思う
- ・カキ養殖

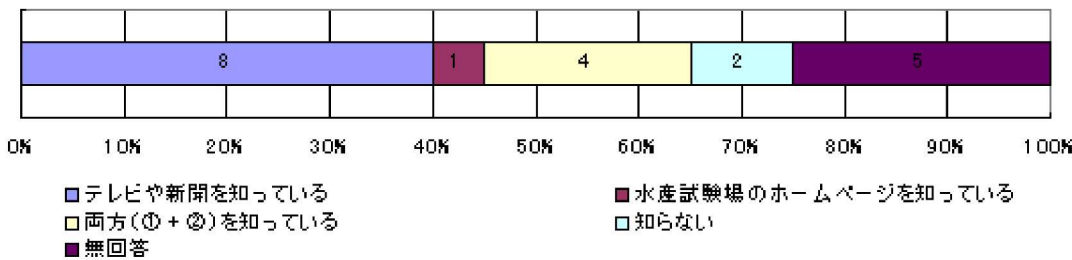
④漁場環境の保全等に関する研究

- ・魚類養殖漁場の水質、底質改善。積極的改善対策。
- ・漁場環境保全とノリ養殖、魚類養殖の考え方
- ・藻場面積の減少と水産資源の変動

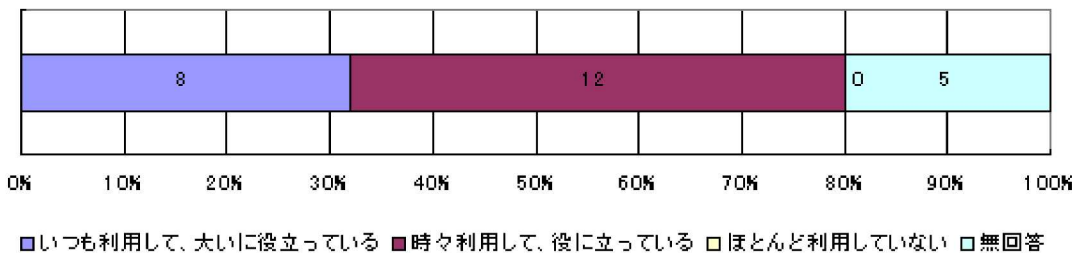
- ・魚付保安林(植林)の実施、確保。貝類(カキ殻)利用による河川等の水質浄化について
- ・有益な汚水処理レベル
- ・ノリ養殖の有機酸の使用は環境に問題が無いのか？
- ・底質環境の改善
- ・底質改良の取り組み
- ⑤赤潮対策に関する研究
 - ・発生した赤潮の増殖を制御するシステム。小割の更なる改良。
 - ・赤潮の発生予測について
 - ・有害赤潮を死滅させる薬品等
 - ・昨年度A漁協では、ハマチの大型魚2kg以上の魚とカンパチの收容密度が高く餌止めが1日遅れた小割に20 0~300尾程の斃死があった。その後漁場では酸欠の状態が続き特にカンパチの成長が遅れた。
 - ・シャトネラベルキュロサの注意報基準、警報基準設定に役立つ研究。
 - ・プランクトン相の改善による赤潮の抑制
 - ・漁業者段階での取り組み手法
 - ・底質改良の取り組み
- ⑥漁場の開発・造成に関する技術開発
 - ・魚礁でなく、従来漁場の復元。
 - ・漁船漁業、資源管理との兼ね合い等
 - ・魚礁沈下後の長期の集魚及び滞留調査
 - ・干潟の拡大、藻場の造成、これらの効果
 - ・干潟、藻場
- その他
 - ・対漁船漁業の研究が少ない。もう少し増やしても良いのでは？
 - ・県内各河口付近の干潟における生物調査(継続化)藻場含む。海砂採取跡の形状と海底の底質調査。
 - ・河川水、地下水、海、森林といった水の循環システムを考えることも必要

(設問3)水温自動観測システムの水温情報の利用状況についてお尋ねします。

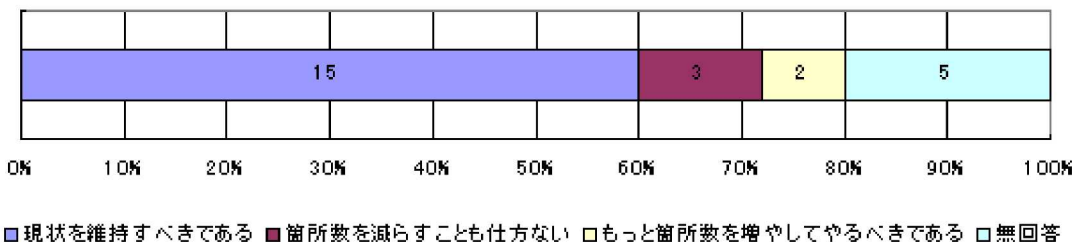
(1) 水産試験場で観測している引田、屋島、大浜の水温は、TV、新聞等の報道、水産試験場のホームページへの登載の方法で、皆様に提供していますが、これらのことをご存じですか。



(2) 水温情報を仕事等に利用して役に立っていると思いますか。該当するものに○印をしてください。



(3) 現在、3箇所(引田、屋島、大浜)の水温を提供していますが、諸般の事情で合理化(減る)が予想されますが、それについてどう思いますか。該当するものに○印をしてください。



その他の意見

- ・現在の3箇所が最低の数である。減は考えられない。長年のデータの蓄積を継続しないとこれまでのデータの意味がない。
- ・「継続は力なり」平年値を出すためには、データの蓄積が大切である。各地区に1箇所有ればと思う。
- ・まずは施設の簡便化・経費節減化。次に箇所数の削減。
- ・もっとコストの安いシステムにして3箇所を続けて、データの継続性を保って貰いたい。

(設問4) そのほか水産に関する試験研究について、ご意見や要望、感想などがあればご記入ください。

(書き込み意見)

- ・赤潮、ノリシーズンの栄養塩低下も一種の危機管理として備えていただきたい。
- ・(漁業者が最終的に漁業を行うために) 売り値、コスト等も考えた研究も行ってほしい。
- ・豊かな海を創るための研究。
- ・魚の放流をもう少し多くしてください
- ・河川、港湾、土木関係者と公共事業のあり方について、水産環境保護関係者との意見交換等の機会を持ったらどうか
- ・生産の場＝環境なので、海洋環境全体の構造を把握して、その内部構造である環境項目の動きを考えては。
- ・漁業者の立場に立った試験研究が大事。そういった面では香川水試の課題については適正と思われた。
- ・香川水試の長期的方針とその結果(とりまとめ)と将来の方向がとりまとめてあれば。

(設問5) アンケート回答者の属性

①性別

	男	女	無回答	計
152	8	25		

②年齢

	~19	~29	~39	~49	~59	~69	70以上	無回答	計
	—	1	1	6	6	1	—	10	25

③職業

	漁業	漁協職員	系統団体職員	研究機関職員	無回答	計
	7	1	3	2	12	25

(おわりに)

アンケートに御記入いただき、また、貴重な御意見を伺いまして誠にありがとうございました。

これらの貴重な意見をもとに本研究発表会をより良いものにするとともに試験研究の推進に取り組んでまいりたいと存じますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。